

# 実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座

横浜キャンパス

## ＜メインテーマ＞避難所運営に係わる実践力の向上

本講座は神奈川大学と「防災塾・だるま」が共同で企画し、提供するものです。

よこはま福祉・保健カレッジ

※「防災塾・だるま」とは、あらゆる防災活動を通じて会員相互の防災力の向上を図るとともに、防災に関わる情報共有化のためのネットワークを構築し、地域社会の防災まちづくりに貢献することを目的とした市民防災の活動グループの名称です。

## 内容

現在、首都圏直下を震源とする大地震発生の切迫性が危惧されるなか、防災対策の基本は自助・共助・公助にあると言われています。

地域防災力を高め維持していくためには、地域住民が多様な生活環境を持った人と人の繋がりを基本とする人的ネットワークによる地域の防災まちづくりが重要であると考えられています。このような視点に立って、地

域の防災まちづくりを実践するコーディネーター養成の講座を開設し、人的ネットワークにより地域防災力を高めることが本講座のねらいです。

これまでに4年連続して開催されている本講座も、今年度は第5回の講座となり、地域の避難所運営に係わる問題にテーマを絞って開催することになりました。

定員	50名	受講料等	5,000円
会場	横浜キャンパス 1号館8階 1-804		※受講料には、資料代および消費税が含まれます。
申込期間	9／1(水)～9／16(木) ※申込期間後も定員に余裕がある場合は、受け付けます。 ※お申し込み・お問い合わせはp.54をご覧ください。		※定員に満たない場合は、開講できないことがあります。 ※講師の緊急な都合などにより日程等を変更する場合があります。

## 講座日程

[開講時間] 18:30～20:30 全6回

回	開講月日	担当講師	テーマ／概要	■総合司会：佐藤 忠文・中村 俊光
1	9／30(木)	荏本 孝久 杉原 英和	一部：講座をはじめるにあたって——地域の防災力を高める実践的防災まちづくりとは 本講座の目的・内容の全体像を説明する。 二部：神奈川県の防災対策について——防災まちづくりのための防災対策の現状と課題 神奈川県の防災対策とその取り組みについて説明し、行政と県民の協働した防災活動の重要性について説明する。	
2	10／7(木)	稻垣 文彦	体験から学ぶ防災対策——新潟県中越地震・中越沖地震の教訓と避難所運営 新潟県中越地震や中越沖地震を教訓に、災害時のボランティア活動に携わった経験から、事前の予防活動や事後の復旧・復興活動、避難所運営の要点について説明する。	
3	10／14(木)	増田 勝也 小野寺 勝	一部：平常時・災害時の公助——神奈川県の危機管理対策の現状と課題 神奈川県における公助（平常時・災害時）の現状とその課題について説明する。 二部：横浜市の危機管理対策について——改訂版拠点マニュアルの要点とは 横浜市における危機管理対策と拠点マニュアルの改訂事項を解説する。	
4	10／21(木)	森 清一	避難所運営を体感する①（導入編）——避難所運営ゲーム（HUG）を通して対応力を養う 災害時の避難所運営にはさまざまな対応が必要となる。その対応力を養うため、避難所運営ゲーム（HUG）を使って説明する。	
5	10／28(木)	福田 武司 小絲 昭平	一部：避難所運営を体感する②（団地編）——現任の避難所運営責任者から聞く 避難所運営（平常時・災害時）の現状とその課題について説明する。 二部：避難所運営を体感する③（戸建編）——避難所運営の達人から聞く 避難所運営（平常時・災害時）の現状とその課題について説明する。	
6	11／4(木)	荏本 孝久 池田 邦昭 中村 俊光	人的ネットワークの構築——本受講生とのネットワーク構築の為の交流を図る 地域防災力を高めるためには、人的ネットワークが重要である。本講座受講生全員を対象として、本講座の受講目的や地域での防災への関わりなどの意見交換を行う。 最後に、講座修了証書の授与を行い、コーディネーター間の協働ネットワークづくりを目指す。	

## 講師紹介

＜防災塾・だるま会員以外＞稻垣 文彦（中越防災安全推進機構復興デザインセンター）／小野寺 勝（横浜市消防局危機管理室）／福田 武司（左近山第二小学校地域防災拠点運営委員会）／小絲 昭平（神奈川区中丸町内会）  
 ＜防災塾・だるま会員＞増田 勝也（神奈川県警察本部危機管理対策課）／杉原 英和（神奈川県温泉地学研究所）／荏本 孝久（神奈川大学工学部）／池田 邦昭（セーフティーリーダー [SL-A]）／中村 俊光（ナカツ防災企画）／森 清一（はだの災害ボランティアネットワーク）／佐藤 忠文（横浜防災ライセンス・金沢）